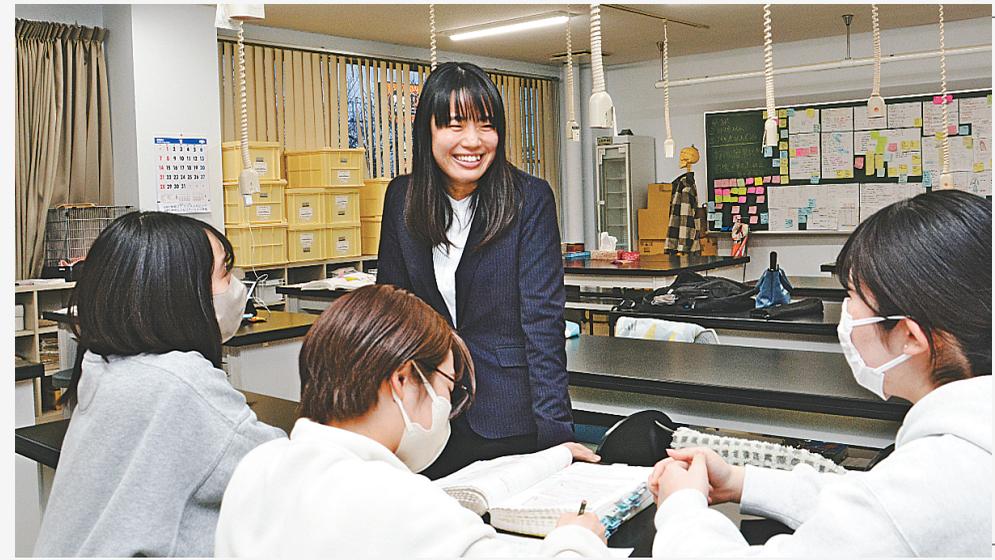


医療や介護福祉関連の情報を活用

さがけ **NIB** 通信

新聞を仕事に生かそう!

うすい のどか
白井 和さん
(28歳、秋田市)
学校法人コア学園
秋田リハビリテーション学院
専任教員



学生たち(手前)と談笑する白井さん。共に成長していくことを目指している。秋田市茨島

さがけ電子版で記事保存

理学療法士として臨床現場で働いた後、昨年8月に秋田リハビリテーション学院に就職した。現在は同学院の学生に教える傍ら、大学院で学んでいる。魁NIB講座を昨年受講し、新鮮に感じたのが新聞の紙面構成についての説明だった。それまでも新聞は読んでいたが、政治や経済、社会など紙面ごとにニュースのジャンルがある程度決まっていることを意識したことはあまりなかった。「紙面の構成が分かれば、情報にアクセスしやすいですね」と話す。記事のエッセンスを読者に伝える見出しに

文字数の制限があることも知り、印象に残っているという。

情報がつかみやすい

受講後に秋田魁新報を購読し始めた。自分の知りたい県内の医療や介護福祉に関する情報が多く掲載されていることを実感した。さがけ電子版も活用しており、専門分野に関する重要な記事は適宜保存するようにしている。「秋田魁新報は情報がつかみやすいと感じます。保存した記事はいつか

授業で使いたいと思っています」と白井さん。電子版で保存した記事はきれいに印刷できることもあって、それも電子版を活用する大きなメリットの一つだという。

必ず目を通す投稿欄

医療や介護福祉関連の記事のほか、必ず目を通すのが「声の十字路」欄。実家の母親が新聞の投稿欄をよく読んでいたため、白井さんもその影響で投稿を読むようになった。「いろいろな

オフの楽しみ

■県北欄 白井さんは大学卒業後、鹿角市の病院に勤務。大館市出身ということもあり、鹿角市や大館市のニュース、話題が載っている「県北」欄は欠かさず目を通して見ている。昨年はクマによる人身被害が相次ぎ、大きなニュースとして社会面でも取り上げられた。クマ関連の記事もやはり鹿角市や大館市の情報には自然と目が向いたという。昨年8月か

人の意見が載っていて興味深いし、勉強になります」。子どもの頃から新聞は身近なメディアだった。自分のペースで読み、情報を得ることができる。新聞を読み続ける大きな理由でもある。

登山やスキーが趣味のアウトドア派。1月の紙面に掲載された「鳥海山の写真の美しさに目を奪われました。秋田にもこんな素晴らしい所があるんだということをもっと知ってほしいなと思いました」と語る。

世代が近い学生たちと接しながら、医療現場で活躍する人材育成に貢献する一。それが自分の仕事と考えている。「学生には豊かな人間性を身につけ、理学療法士に向かって成長してほしいと思います。目の前のことに懸命に取り組む、私自身も学びながら成長していきたいですね」と目を輝かせた。
(随時掲載)



らは秋田市に在住。秋田市内の情報にも目を配るようになり、今では「秋田市」欄も必読の紙面になっている。

Newspaper In Business

【NIB】ニューズペーパー・イン・ビジネスの略称で、新聞を仕事に生かしてもらうための取り組み。企業や団体、自治体などを対象に「効果的な新聞の読み方」「要点を押さえる見出しの付け方」「分かりやすい文章の書き方」などの講座を開催しています。開催無料。内容などは要相談。

問い合わせ・申し込みは
秋田魁新報社読者局
TEL 018・888・1852

Newspaper In Business

購読・試読のお申し込み